



光陵だより

昭和47年7月20日発行
 第8号
 発行所 光陵高校 P.T.A.
 編集者 広報委員会
 印刷所 たなべタイプ印刷

P.T.A. 会長 齋田 幸忠

うっとうしい日が続く今日此の頃ですが、会員の皆様には如何お過ごしですか、お伺ひ申上ります。

緑がほしいー

校舎の建築も、お蔭様で順調に進んで居りまして、二学期の初めには完成する予定です。プールとクラブ室を除けば、これで創立高校としての形は、一応整った事に成り、本校創立以来の宿願も達せられるわけで、御慶びの至りです。

ところで、学校に行かれて皆様もお感じに成った事と思いますが、何となくもの足りない感じを受けますね、それは緑が無いからだと思えます。校舎をとりまく常緑樹、芝生を敷きつめた中庭、桜や拓樹を上手に配した玄関の植込み、歴史のある高校は緑が多いですね。

本校も、此の建築の御好意で、備かですが芝を張ってもらえる事に成り、只今作業が進められて居りますが、植樹の方は各学校が自分達でやらねばなりません。本格的な植樹をするには、莫大を費用がかかりますし、勿論P.T.A.に現在そのような余裕は有りません。卒業生に其の都度記念植樹をお願いして行く積りですが、取り敢えず現時点では、将来につなげるような形の植樹を植樹をしてやりたいと思えます。

誘惑の多い夏休みー

新築の校舎で、立派な先生方に指導を受けて居る子供達は、本當に幸せ者と云う程か有りません。此の幸せを子供達が、頗った道に踏み込まずぬより親として正しく指導して行きますし、何しろ一番むづかしい年頃です、子供達の自主性を尊重するのは結構ですが、放任主義はどうかと思えます。親として自分の子供が何処へ、誰と、何をしに、行く位の事は知って置きたいものです。

幸い、本校は創立以来一度も事故を起した事が有りません。それと云うのも学校と父兄との連絡が緊密だからです。どんな、ささいな事でも何か心配事がありましたら、遠慮無く先生に相談されるのが、宜しいかと思えます。「学校は学問、家は家庭」と云う事に成って居ますが、人間味豊かな先生が揃って居る本校では、気持ちよく相談にのって下さいます。

広報委員会より

穴 澤 生 江

新学期より大勢の新入生が入学され、それに伴って、十数名の先生方をも新しくお迎えし学校も、大世帯となりました。

広報委員会では、毎年七月末と十二月末の二回、光陵だよりを発行致して居ります。

今迄は先生方の御厚意にあすがりして参りましたが内容も豊かなものが出来ましたが、編集の時期は、採点その他で、先生方も大変お忙しい時に、多くの犠牲を払っていただく事は、あまりにも申訳なく、と申しましても先生方のお力添えなくしては、到底発行不可能ではございませぬが、会員の皆様の御協力によりまして、先生方の御負担を少しでも少なくして、より明るく楽しいものに致してまいりたいと思っております。

今迄通りの、校長先生やP.T.A. 会長等の御挨拶、学校行事の報